

西濃教育事務所
「例えばこんな授業」シリーズ
小・社会科編

学年・単元名	第5学年・わたしたちの国土 3 低い土地の暮らし 一 岐阜県海津市一
単元のねらい	国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活を理解し、調べたことを図表や文などにまとめ、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることについて考えたことを伝え合うことができる。
本時のねらい 第2時／全5時	1900年代に海津市で水害が大きく減った理由について、ヨハネス・デレーケの治水工事に着目して考えるとともに、輪中に住む人々が低い土地ならではの工夫をして、水害から暮らしを守ってきたことの功績について考えたことを、仲間と伝え合うことができる。

学習活動	留意事項
1 「120年ほど前の川の流れ(教 p26 ²)」「120年ほど前の水害の発生件数(教 p27 ⁵)」を見る。【全体】	<ul style="list-style-type: none"> ・120年ほど前の海津市は、木曾三川が入り組むように集まっていたことを伝え、大きな水害の発生件数の移り変わりについて年代順に提示することで、「1900年代になると水害が大きく減ったのはなぜか」という疑問を生み出し、課題化する。 ・まずは教科書から調べ、その後、単元の最初に配布した資料を使ったり、タブレット端末を用いて検索をしたりして調べてよいことを伝える。教科書以外の資料の場合は、どの資料から調べたか記録しておくことを確認する。また、学習形態(個人学習、スクランブル学習等)も自己選択するように声をかける。 ・「自分の考えを確かめるために学級全体で交流しよう」と伝え、必然性のある全体交流にする。 ・意見の付け足しがあった時には、「S1さん、S2さんの付け足しについてどう思う?」と問い返し、意見の練り合いが生まれるようにする。 ・個人追究の過程で、輪中に住む人々は水害が多いことに適応し、工夫して生活していることに気付く児童(S6)がいると考えられるデレーケの功績について考えを確かめ合った後、S6が、水害の多い地域に住む人々の工夫に目を向けていることを紹介した上で、「輪中に住む人々が水害の多い地域であることを踏まえた工夫をして暮らしを守ってきたことをどう思うか。」と問い、多角的に考えられるようにする。
2 本時の課題をつかむ。【全体】	
1900年代になって海津市で水害が大きく減ったのはなぜだろう。	
3 予想し、追究の視点をもつ。【全体】	
S1: みんなで協力してこう水が起きないようにしたからかな。 S2: 4年生「自然災害から暮らしを守る」で学習した堤防工事のことと関係がありそう。	
4 予想をもとに、教科書、タブレット端末を活用しながら個人追究(必要に応じてペア・グループ)を行い、協働学習支援ツールを用いて、考えの根拠となる資料を示しながら全体で確かめ合う。	
S1: 【服部さんの話】から、オランダ人技師のヨハネス・デレーケが三つの川の水源や流れを調査し、25年ほどかかる治水工事を行ったから水害が減ったと言えます。 S2: S1に付け足して、【動画「デレーケの治水工事」】を見ると、小さく分かれた川を埋め立て、川の流れを整理し、流れが1点集中しないようにしたから水害が減ったと言えます。 S1: なるほど、ほとんど今の海津市【教 p22 ¹ 三つの川が集まる地域】の地形だね。 S3: さらに S1に付け足して【海津市のホームページ】を見ると、最初の工事が1887年から始めて、最後の工事が1900年に行われたことが分かります。だから1900年代になると水害が減ったと言えます。 S4: でも、私は【動画「デレーケの治水工事」】の中で述べられていた、山に植林したことも大事だと思います。4年生の「自然災害から暮らしを守る」で学習した治山治水につながります。 S5: みなさんの話を聞いて、デレーケが25年近くかかる治山治水工事を行ったことが、水害を大きく減らすことができた理由であると分かりました。	
5 輪中に住む人々が水害の多い地域であることを踏まえた工夫(「水屋(復元)と内部の様子」(教 p27 ⁴)、「水防演習の様子」(教 p27 ⁶)をして、暮らしを守ってきたことについて交流する。【ペア・全体】	
S6: 輪中に住む人々は、水屋を建てたり、水防演習をしたりして洪水の被害を少なくしています。 S7: 自分たちの住む土地が水害の多い地域であることを踏まえて工夫するってすごいね。 S8: そうだね。さらに、今でも、市と市民が協力して水防演習しているのもすごいね。	
6 わかったこと、仲間から学んだこと、さらに調べたいことをまとめ、仲間に伝える。【ペア・スクランブル】	
S8: 「1900年代になって海津市で水害が大きく減ったのは、デレーケが25年近くかけて治水工事を行ったからだ。S6さんや先生の話聞いて、輪中に住む人々が、水害の多い地域であることを踏まえて水屋を建てたり、水防演習をしたりしているところがすごいと思った。輪中に住む人々の家の様子を見に行ってみたい。」というまとめにしてみたけれど、S9さんどうかな。 S9: S8さんのまとめに、S6さんが話していたことを入れているのいいね。S4さんが話していた治山のことを入れてみたらどうだろう。 S8: なるほど。では、「デレーケが25年近くかけて治山治水を行ったからだ。」を書き加えるね。	
7 わかったことや仲間から学んだことなどを書きまとめ、協働学習支援ツールを用いて提出する。	【思考・判断・表現】(指導に生かす評価) デレーケの長期間に渡る複数の治水工事が成果を挙げたことや、輪中に住む人々が水害の多い地域であることを踏まえ、水屋を建てたり、水防演習をしたりしていること等の工夫をして水害から暮らしを守ってきたことについて考え、仲間と伝え合っている。《観察・ノート》 ・「課題に対する答え、仲間や先生の話聞いて思ったこと、さらに調べてみたいこと」についてまとめを書いた後、仲間に伝え、本時の学習内容を踏まえた内容になっているかを確かめ合うようにする。その際、お互いのまとめ書きについて、丸や助言を赤で加えるようにする。

本単元の主な学習活動
第1時 堤防に囲まれた土地 ・海津市の土地の様子や、人々の暮らしについて考え、学習問題をつくる。
第2時 水とたたかってきた人々 ・1900年代になって海津市で水害が大きく減った理由について考え、交流する。
第3時 豊かな水を生かした農業 ・輪中に住む人々は、豊かな水をどのように農業に生かしているのかについて調べる。
第4時 水を生かした生活 ・海津市の人々は、豊かな水をどのように生活に生かしているのかについて調べる。
第5時 ノートにまとめる ・海津市の人々の暮らしや産業におけるくふうについて、ノートにまとめる。